



Nme ゐんめ

イビル
ゲイ

成年
コミック

ゲネシス



化ケケケ

んめ



【第1話】	びしょ濡れ美女の危険な誘惑	007
【第2話】	ひとつめの恋は淫らに淡く	027
【第3話】	上のくち下のくちどこのくち？	045
【第4話】	写真部の淫らな怪合	063
【第5話】	写真部の淫らな怪合・醒	083
【第6話】	懐かしい祭り囃子の音色は淫らな調べ	101

【第7話】	心をノゾく山の守り猫	123
【第8話】	妖刀の姫に魅入られた青年	145
【最終話】	涅槃を求め妖しく惹かれ合う陰と陽	165
あとがき		195

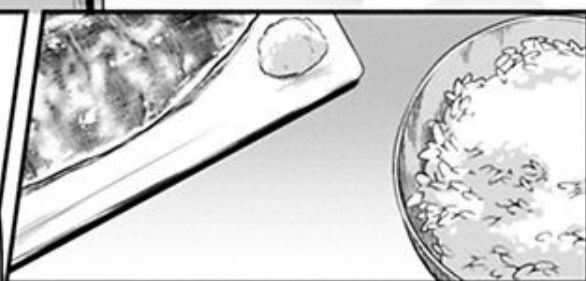
contents

他
ヶ
ヶ
ヶ



他
ヶ
ヶ
ヶ
ヶ





やっぱり父さんも
学校ついていて
やろうか?



ねみい...







うわ...年はいつてそうだけど
すごいキレイな人だ
この家の人の人なのかな?

転校初日に迷子だなんて
とんだ災難だったわね

学校までの道は
覚えてたつもり
だったんスけどねー

遅刻カナー

何かに
吸い寄せられるように
上がってしまった……

いつも今日はここで
ゆっくりと過ごして
みたかどうかしら？

え？

遠慮すること
はないのよ

家にはあたしだけだし
旅は道連れ世は情け……と
言う言葉もあるでしょう

それじゃあ
お言葉に甘えて……

あれ……変だぞ

学校へ行かなきゃ
いけないのに
なんでこんなこと
口走ってんだ？

それと……ふたりとも濡れた服の
ままじゃ風邪ひいちゃうし……
脱いじやったほうがいいわよね♡





久方ぶりの獲物なんだから

最近の人間は鈍感すぎて
あたしみたいな妖怪がいても
気づきやしないのよね……
寂しいわあ

ほ…本当に妖怪…!?
…っていうか

今その妖怪に
童貞奪われそうに
なってんだけど!

嫌だ…!!
妖怪に貴重な童貞を
捧げたくない…!!





ふふふふ……
挿れただけでも精気を吸われるから
快感と脱力感がすごいでしょう？

少しかわいそうだけど
あたしの家に辿り着いた
不幸を呪ってね

相手が衰弱するまで
あたしは決して放さないの

さあ……最期の瞬間まで
一緒に楽しみましょう♡

うあつ

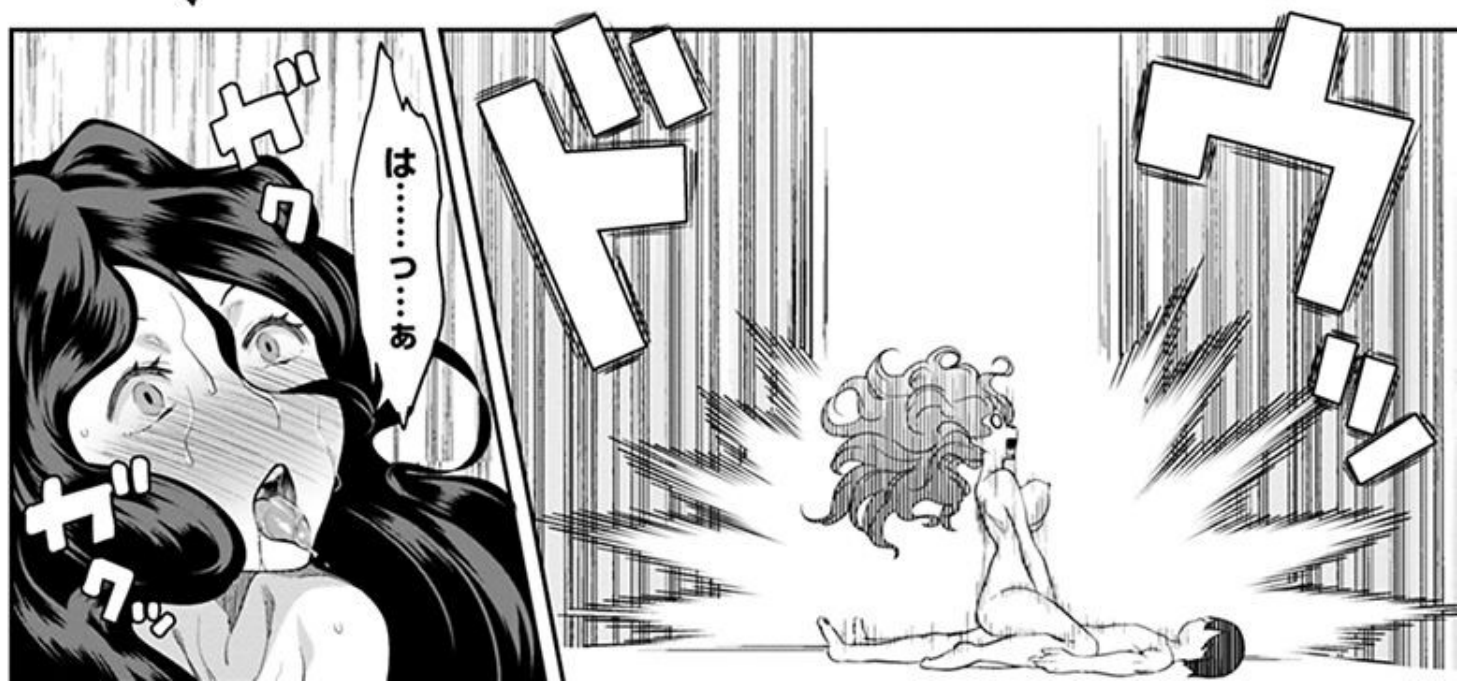
うっ……

たぶん

たぶん

みちち

みちち





何…コレ…

彼の精液から
大きな陽の気を
感じたけど……

でも
この多幸感は
何……？



あれ……？

無駄よ



逃げるなら
今のうちだよな……！

何があったか知らないけど
体の自由が戻った……



駄目…気持ちよすぎて
力が入らない……

……



この空間はあたしが
作ったんだもの

あたしの意思に反する
事象は起きないわ

帰してあげてもいいけど
その代わり……







さっきまで
俺を殺そうとしてた奴が
言うセリフとは思えないけど……



もー…男のくせに
細かいわねえ



んんっ♡
…あたしからこんな
声が出るなんて……

君のこと……
本気で…んあっ♡
好きになっちゃい…そ…

なんて言うか
……

まあ……

!

[illegible][illegible]





つづく

第2話 ◆ ひとつめの恋は淫らに淡く













この事態は
いかに
如何なるものや……

下校途中グラウンドから
ジュンちゃんの姿が
見えたと思ったら
野球部の部室前で堂々と
エロ本見てんだもんなあ……

ギーン
行たぞー

なんだか話しかけ
づらいし帰るか……

えっ!?

まさか……
オナニーしてる……!?

おにーっ

しゅ…

しゅ…

おにーっ

おにーっ



あなた
貴方たちがいつもオカズにしてる
えっちな本でオナニーしてる
あたしを見てえ……♡

野球部員の
みなさあん！

あつあん
みてえ……

みてえ♡

みて♡



変なとこに
打つよなー

タタッ

ったく



ゲッ！



えっ？

見て……

もっと
近くで……



俺は……
俺はずっとジュンちゃんを
見てるよ……!!

へ……うそっ
霊介……クン……?

えっと
……いつから……?

ジュンちゃんが
エロ本読んでる
時から……

あ……はは……

オナニーしてる姿……
すごくエロくて
興奮したよ

へっ
あ……そっ
それはどうも……

じゃなくってえ……
ああああ……

は……あ……
ジュンちゃん……俺

あっ……♡



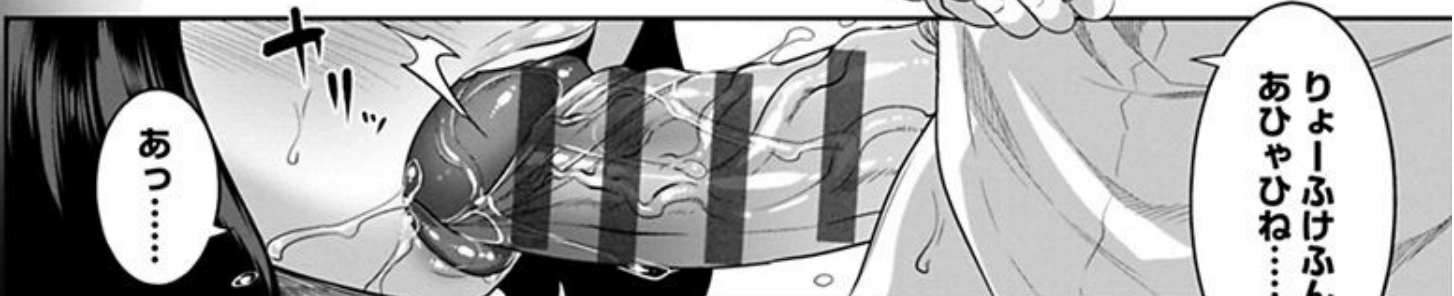


欲を言えば
もう少し刺激が
欲しいところだけどね...



ほんろっっ
うれひい...るろっ

ジュンちゃんのクチ...
あったかくてぬるぬるで
気持ちいいよ.....



あ.....

りよーふけふん...
あひやひね.....



ズンッ

ズンッ



メガネが取れたら
一つ目に……
まさかまた妖怪……？

霊介くん……？

あれ……でも変だな
妖怪だなんて気に
ならないくらい
かわいく……

きく

えっごめん
素の顔がかわいくて
めっちゃ興奮してきた
もっとよく見せて……

フチャ

へっ？
いや……ダメダメ!!

ちょっと物好きい……
あたし妖怪とかその
類いなんですけどお……？

霊介くんお願い……
何も言わずそのまま
抱いて……

……うん
わかった

ニヤァ……

うーん…やっぱり
素顔のほうが

ひょいっ

ひゃあっ！

て……

手…ぎゅって
して……

あたしね…
もう…ひとりはいや…なの

そばにいてえ…
ずっとお…あつ♡
あたしを見ていて…

霊介くん……
お願い…ずっとお……

わかった……
ずっとそばにいる…
約束するよ！

いっ…ふっふ

ぽちゅっ

ぽちゅん

ぽちゅん

ふっふっ♡





流行るって言い方は
違うと思うけど……
うちも定食屋だから
最近じーちゃんピリついてる
んだよね

えっ

霊介んち
めしやなの？

言ってなかったっけ？

お食事処キムラ食堂
っていう……

あー俺
知ってるかも

今にも死にそうな
じーさんがやってる
ところだろ？

……実際は死ぬほど
元気なんだけどね

それじゃあ
またー

ボサボサな髪だな……

他人の事言えないけど……

服も汚れてるし
ワケアリだろうか……

あれ……
お客さんかな？







なんだアレ……
後頭部に……クチ？

霊介!!

たあ
ああ

ちよ……
一体何が……？

例の
食い逃げ犯!!

そいつじゃ……
捕まえてくれ





大丈夫…？



君って笑顔になると
本当にかわいいね

…へっ？

冗談はやめて…
自分でも醜いって
わかってるから

いつも
食べてばっかの
デブだし……

ヤケに卑屈だなあ……

あのさ……

君はいつも
あんなこと
食い逃げをしてるの？





…いやいやいや
俺なんて食っても
ビョーキになっちゃうよ!?

…そうじゃなくて



あたしはヒトに
迷惑かけたくないから
いつも普通の食事で
精気を補ってたんだけど

妖怪って本来はね…
ヒトの精気を吸って
存在を維持する
もので…だから……



なんだよ
やっぱり良いコじゃ
ないか

そういうことなら……

協力するよ

是非……!

ヒトの精気って

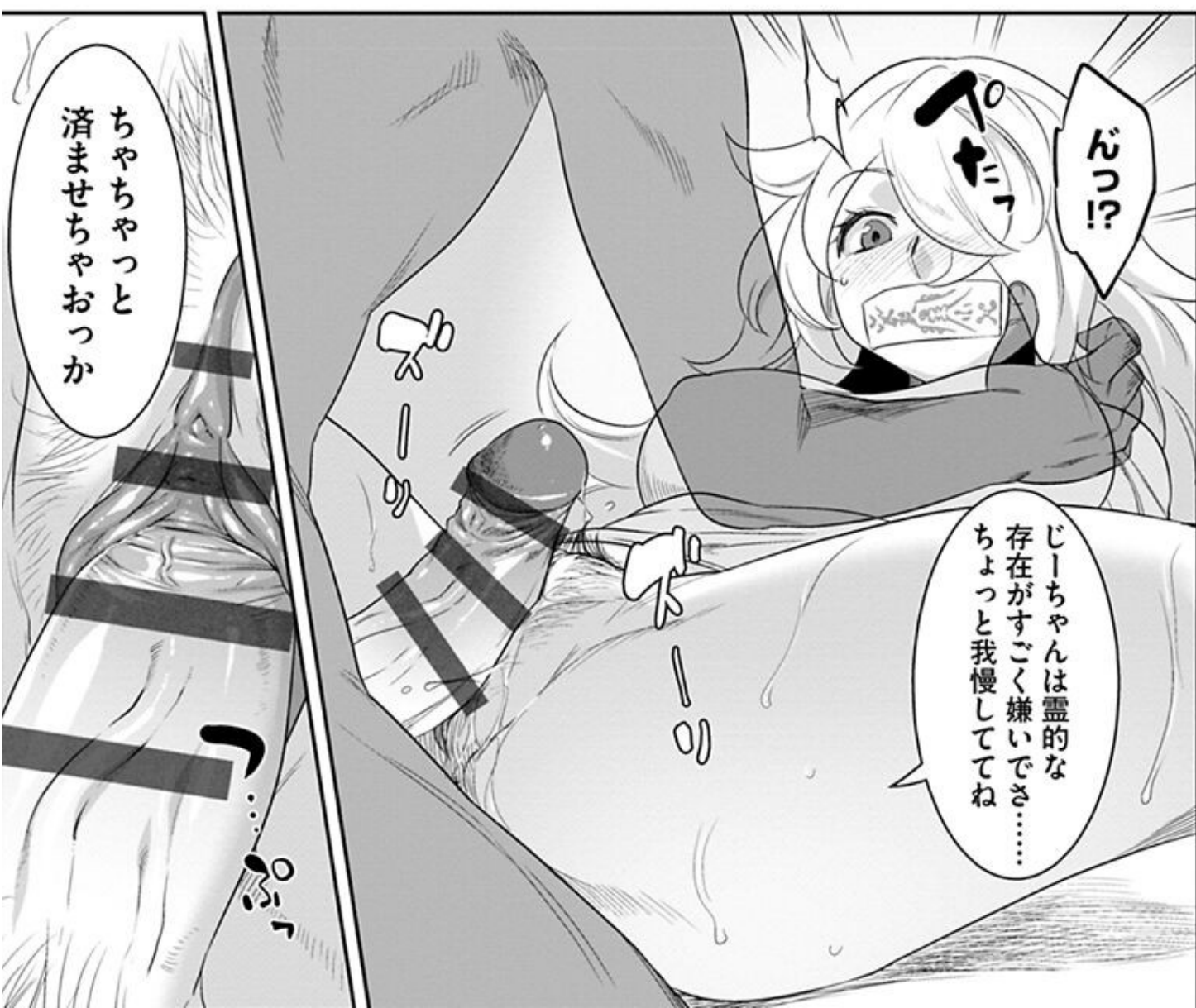
やっぱり
アレだよな……



うーわあ……
もうびちよびちよに
濡れちゃってるね

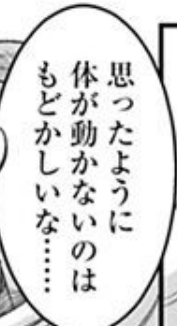
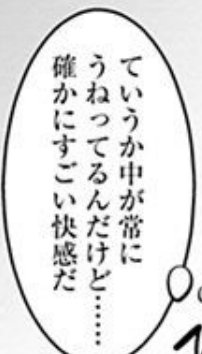
あつ……あのねっ
そこでも間違いじゃ
ないんだけど……

んっ……う……
わ……私の場合……
もっと効率のいい方法が……

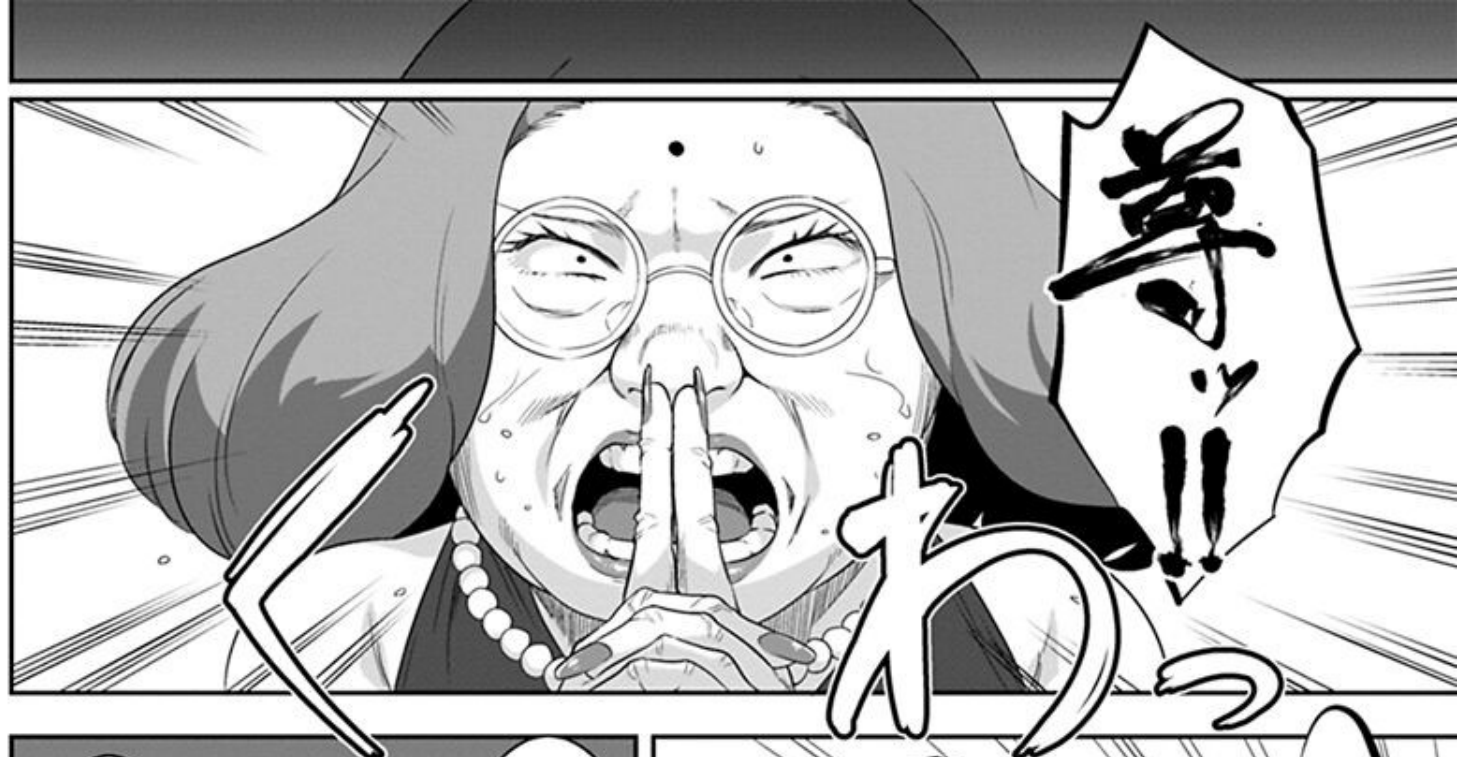








あれ……
少し緩んで……



相田君……こっちを見なさい
四限目どこにいたの？

えー……
教室っすけど？

それと前から言ってるけど
その髪色は駄目よ

もう少し学生らしい髪色に
直しなさい
来週までには黒にすること
……いいですね？

クラス委員なんて
くじ引きで決まった
だけじゃん……

成美ちゃん
俺食堂行きたい
んだけど……

先生がたから聞いてるわ
相田君はたびたび授業に出てないって……
そんな素行じゃクラス委員として
示しがつきませんよ

「わかりました
羽原先生……でしよ？」

わ……わかりました
羽原先生……

第4話 ◆
写真部の淫らな怪合



だいたい成美ちゃんは
カタブツすぎんだよなあ
アレがなきや美人だし
イケてる女なのに……

おかげでちくわパンしか
残ってなかったじゃんか

あーあ……



霊介というのは
確か……

んん？



隣のクラスの丸岡か…
なんつーか珍しい
組み合わせっーか
何を霊介と熱心に
だべってんだ？

おっと









写真部はずっと
廃部寸前でね
なんとかそれを食い止め
れないかと思って
先生に相談したんだ

第49回
犯病県
フォトコンテ

ちよちよと待って
丸岡君……

先生に裸になれ
って言うの？

はい！
お願いします！！

県のフォトコンには
エロス部門があつて
競争率が低いから
狙いなんです！

おなしゃーす

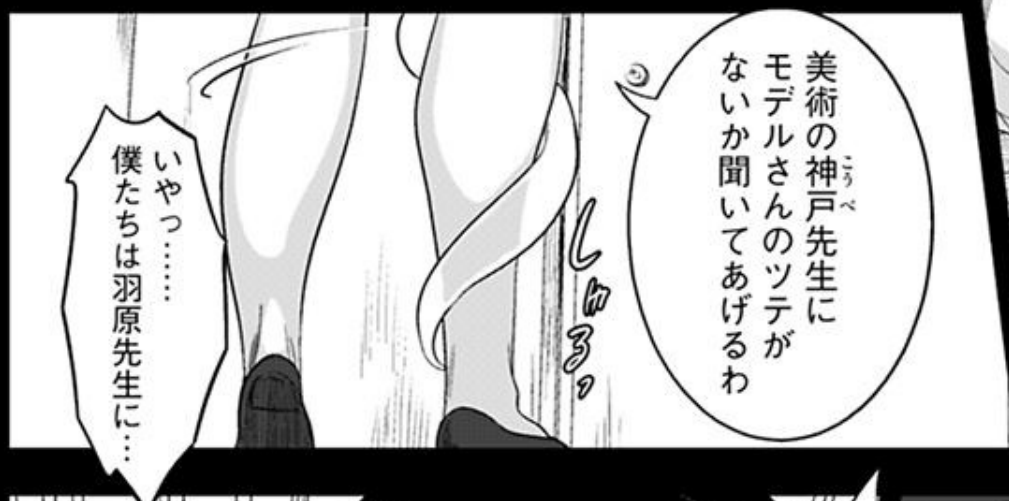
お願いします！

何かしら賞を取れば
廃部を回避できるかもって
先生言っただじゃないですか！

でもヌードモデルは
ちよと……

後生です！
先生ってバレないように
撮りますから！

うーん……





わかったわ

え？

……

顧問教師：だもの

部活に一生懸命
打ち込んでる生徒のために
ひと肌脱がなきゃ駄目よね

まっ：正直
そこから先は
あまり覚えて
ないんだけどさ





あぁぁぁぁぁ

くっ…イクぞっ！

あぁぁぁ

あ

あぁぁぁ

あぁぁぁ

あぁぁぁ

あぁぁぁ

あれ……？
今……



多分気のせい……
じゃない

雰囲気にもまれて
気づかなかったけど
先生から鋭い妖気を感じる



写真部の人たちからも
微かにだけど同様の……
この人たちも取り憑かれて
いるんだろうか？

羽原先生の
目を見るんだ



どうにかして
コイツを鎮めない
と
どうにかして……

えなんだ……
体がおかしいぞ……

下半身が熱い……
チンコが勃起しすぎて
いてめちやくちや痛い





先生とセックスする
ってことは
入部届にサインをしないと
同義なんだけど

問題ないよね？

って…聞いてないか

フムッ

フムッ

フムッ

はあ

フムッ

んん♡

カッ

はあっ…嬉しいわあ
んっふふ……

鬼村君は
イケナイ子よねえ

ゴムも着けずに先生の
おまんこに…んあ
おちんちん…ふふっ
挿れちゃうだなんて…♡

カッ

フムッ

フムッ

フムッ

フムッ

フムッ

んはあっ！
もつと奥
突いて…えっ♡

写真部の子たち
より……

君の方が
ずうっと素敵♡

おは♡

体は言うこと聞かず
容赦なく先生の膣へと
腰を打ち突けるが

俺にはひとつの
思惑があった

最近漫然とだけど
感じていたこと……
俺の精液には
霊を浄化させる力が
あるんじゃないか？

そしてそれが事実
だとしたら……

たはん

たはん

おは♡



先生を助けることが
でき

ハッ...

ユウウ!

ハッ...

ハッ...

ハッ...

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ



この姿ならば
受け止めきれよう

イヤ...
ッ

正体を
現しやがった...!

蛇...?

せ...先生?

うわああ!

つづく



なん...だよ...
この化け物っ!

こいつが...

おっ...

羽原先生に
取り憑いていた
悪霊.....!

催眠が醒めるほど
刺激的な姿だったか？
くくく.....

おっ...

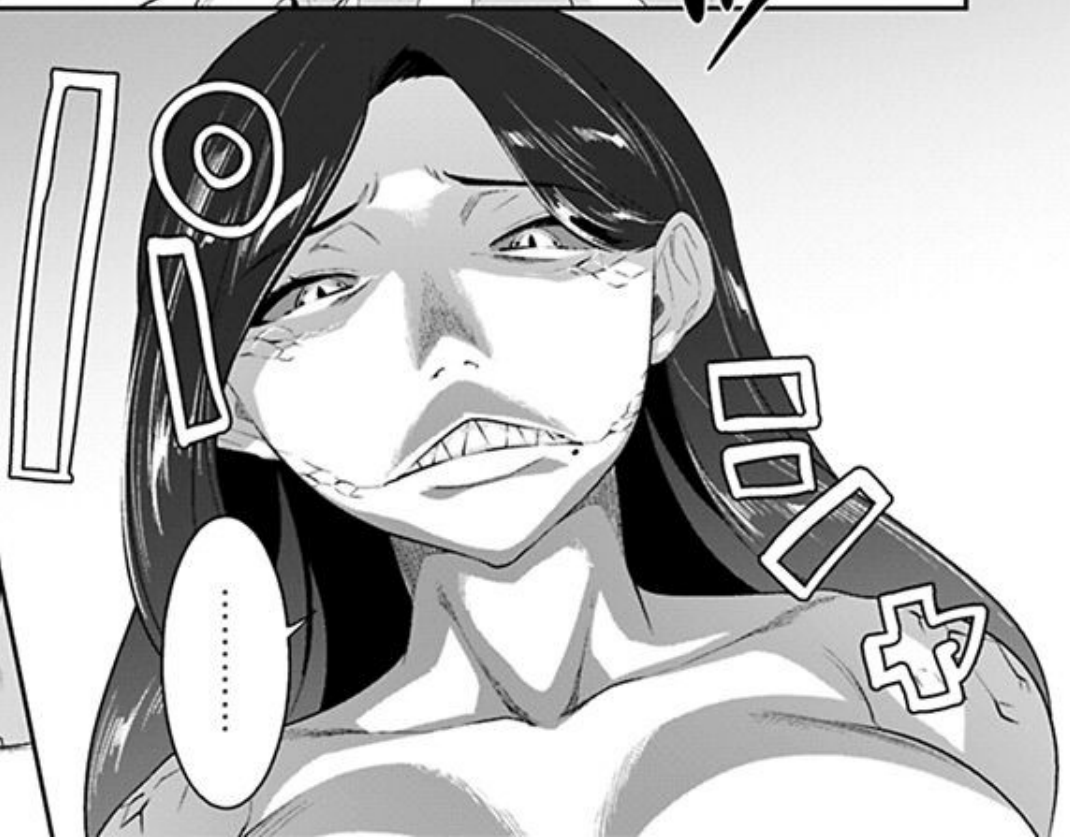
おっ...

第5話 ◆
写真部の淫らな怪合・醒

怯える様子は愉快だが
騒がしいのは好かんぞ







ブリッ!

あまり妙な真似は
しないほうがいい…

さきなくば
首が転がるぞ



…おや?

首を絞められて
興奮したのか…?
ふ…面白いやつだ

何はともあれ
準備は整ったと
いうわけだ



童…おまえにひとつ
いいことを教えてやろう



冥界の存在と
触れ合う者は
冥府の世界へ
近づいていく……

詰まらぬ舌の先は
その奥の奥まで
届く……

おろろろ……

触れ合うだけで
徐々に精気は抜けていく

ならば膣への吐精は
どうなるか……

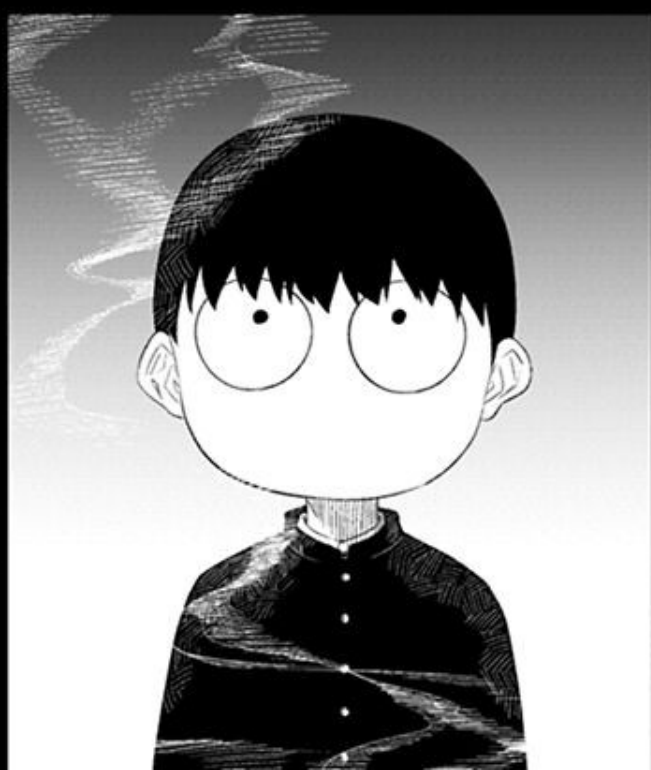
にぎっ

く……あ











彼奴らは無能じゃ

弘美と和子さんは
魑魅魍魎の類いに殺された
……わしにやわかる

親父……
えー加減にせえよ



はあ？

なあ霊介

じーちゃんとは
ばーちゃんとお母さんに
酷いことした悪霊を
絶対に許せんのだやけどな



霊介……おめーは
どう思っとんなら？

……



普段はそんな言うても
流せとったけどなあ……
今は霊介のためにもしつかり
現実受け入れにやおえまーが！

現実受け入れよお
らんのはおめーじゃ
霊介はちゃんと
理解しとるで

ボクは……

ガッガッ

……

……

なんだこの精気は……
陽の気が巨大なだけではなく
強烈な思念を帯びている……

シューッ……

この気は
危険だ……！

ガッ
どんな幽霊でも
助けてあげたい……



！



……あ

つぶね…
走馬灯じゃん！
子どものころの…
記憶だった

あのころは近所に
友達も多くて
毎日遊んで…
そうだよ
あのころの友達って……

思い出した……
昔の俺にとっては
霊的な存在って畏怖の
対象じゃなくて……
友達だったんだ

よ…寄るなッ！

皆…無邪気に見えても
なんだか苦しそうだったな
その中で自分は無力で
何もしてやれなかった…
けど

今の俺なら……

童…おまえは何者だ…？

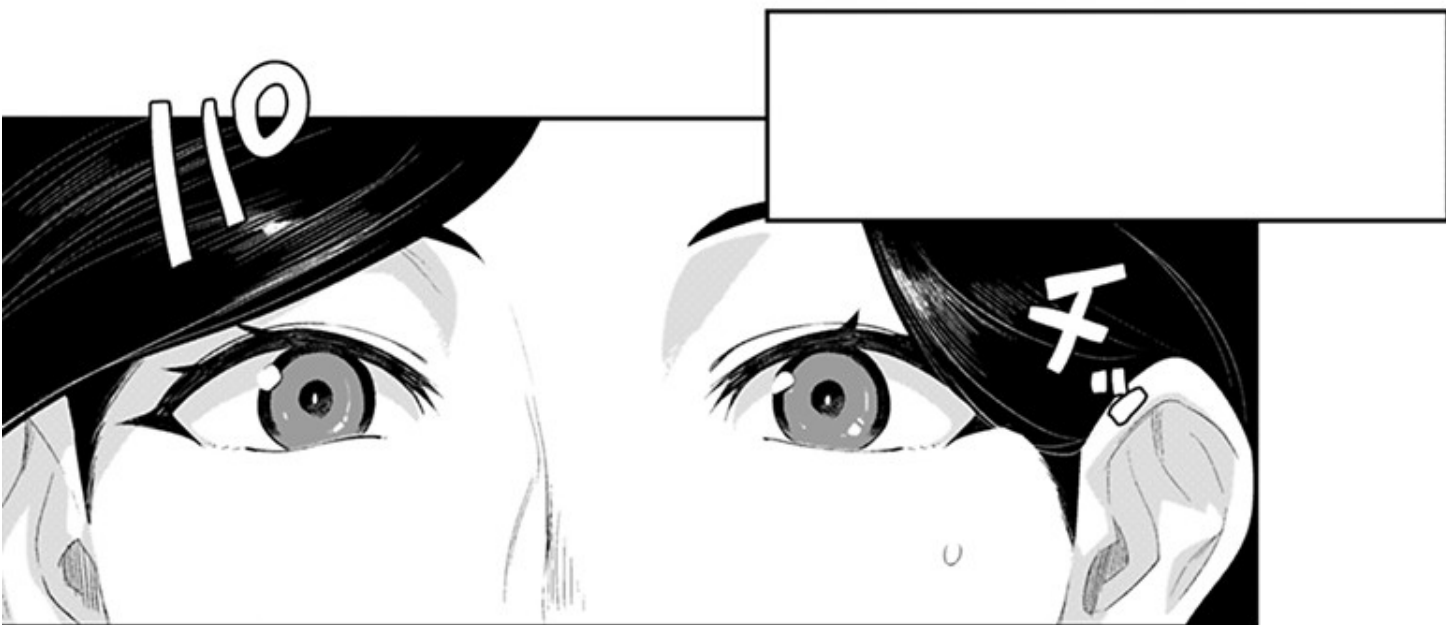
おまえの精気を
取り込んでからだ……

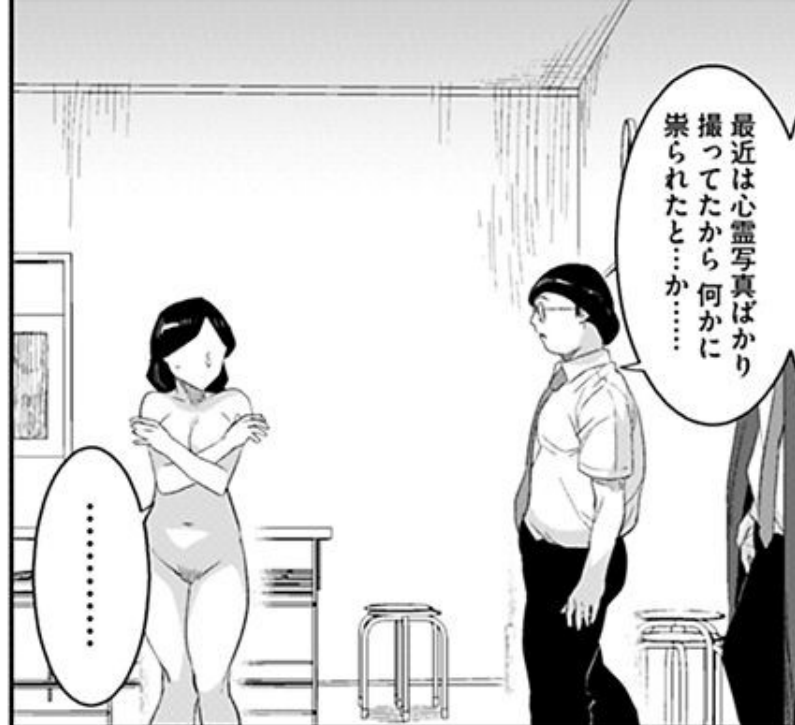
胸がざわついて
飲まれないことを
渴望してしまう……











ただいまー

父さん
何やってんの？

うわっ

第6話 ◆
懐かしい祭り囃子の
音色は淫らな調べ

ああ夏祭り…

てかそんな量
ひとりで持って
けるの？

おまへ

そうだなあ
親父が手伝って
くれるわけもないし

今日の夏祭りで
うちは焼きそばの担当に
決まったからな

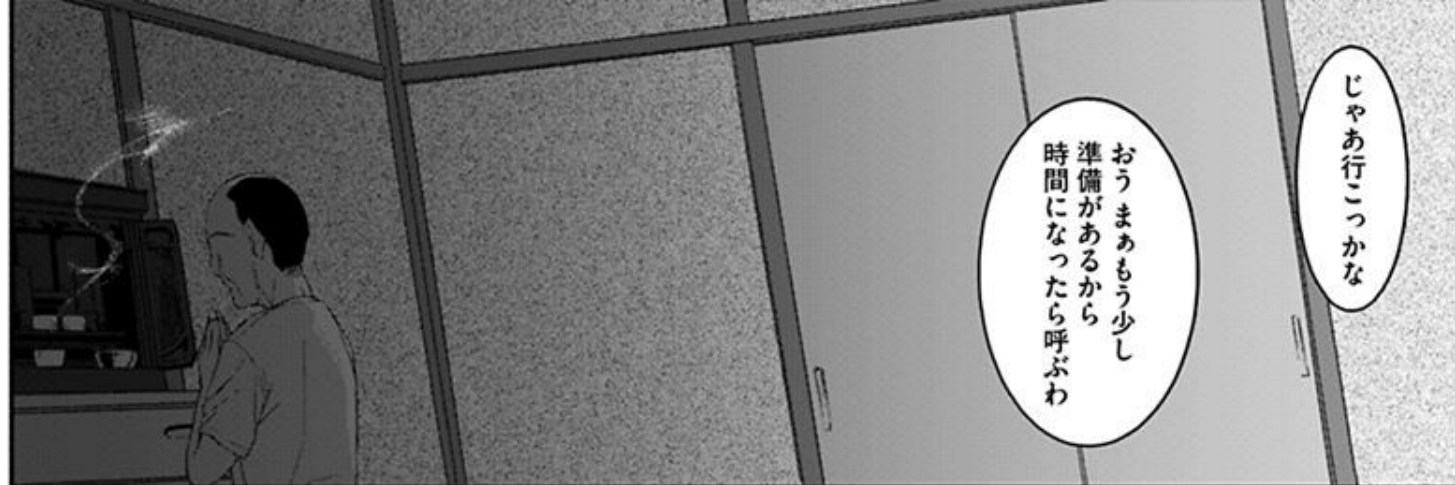
何って
焼きそばの下準備
だよ

とっ
ちゃい

霊介さえよければ
一緒に行かないか？

昔はおまえも夏祭り
好きでよく行ってた
だろ？

夏祭りかー……
子供のころは確かに
好きだったなー



じゃあ行こっかな

おうまあもう少し
準備があるから
時間になったら呼ぶわ



お祭りなんて
向こうじゃ縁遠かったから
ちよっと楽しみたぞ

昔はあの子と
夏祭りに行くのが
毎年楽しみで――

バクダン
キャンディーに
たいやきに
イカ焼き……

……あれ？



「あの子」って……

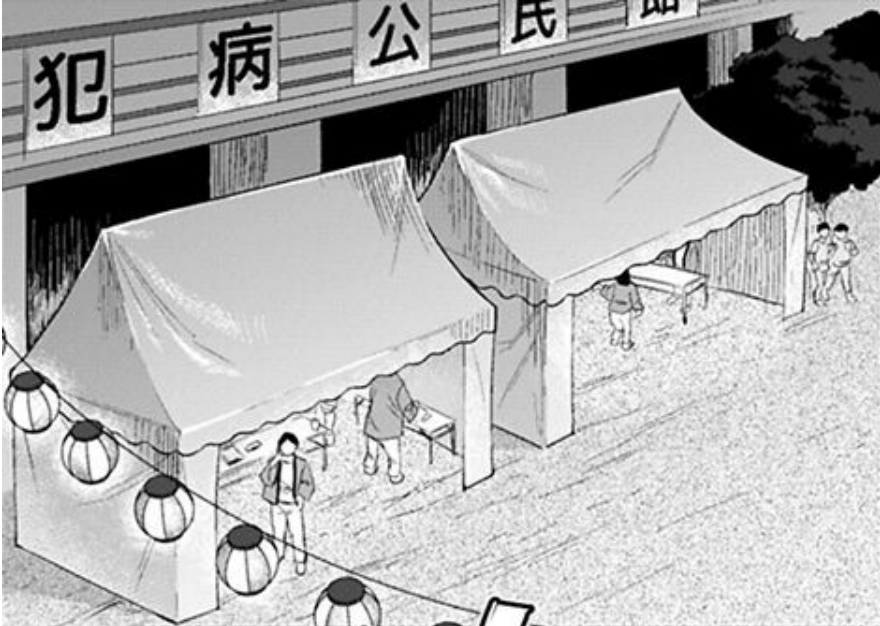
誰だっ……
……け……？

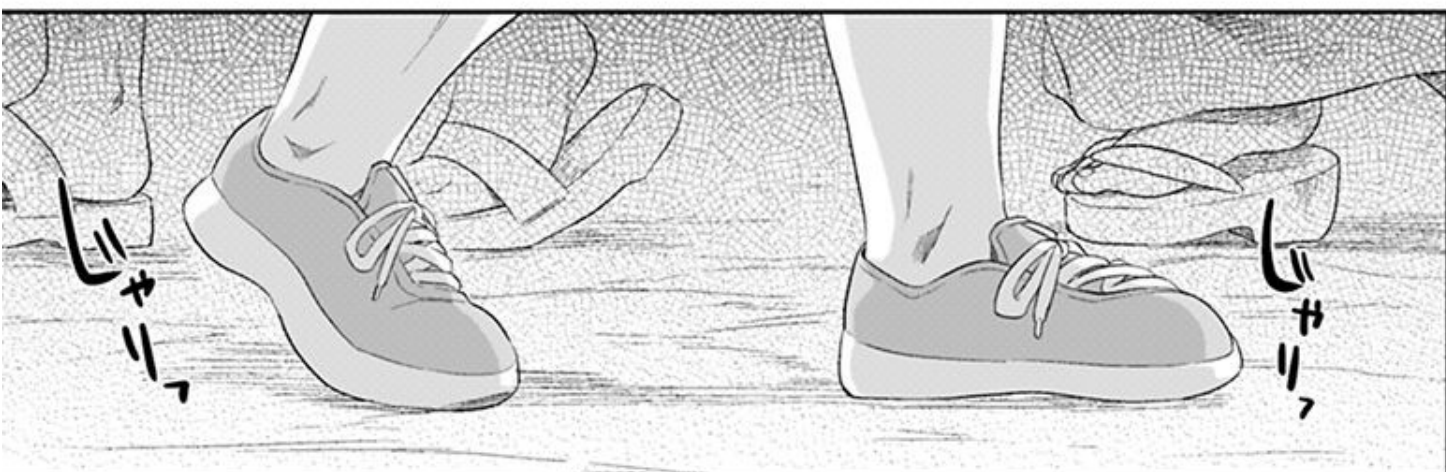
大丈夫だよ

絶対にまた
会えるから









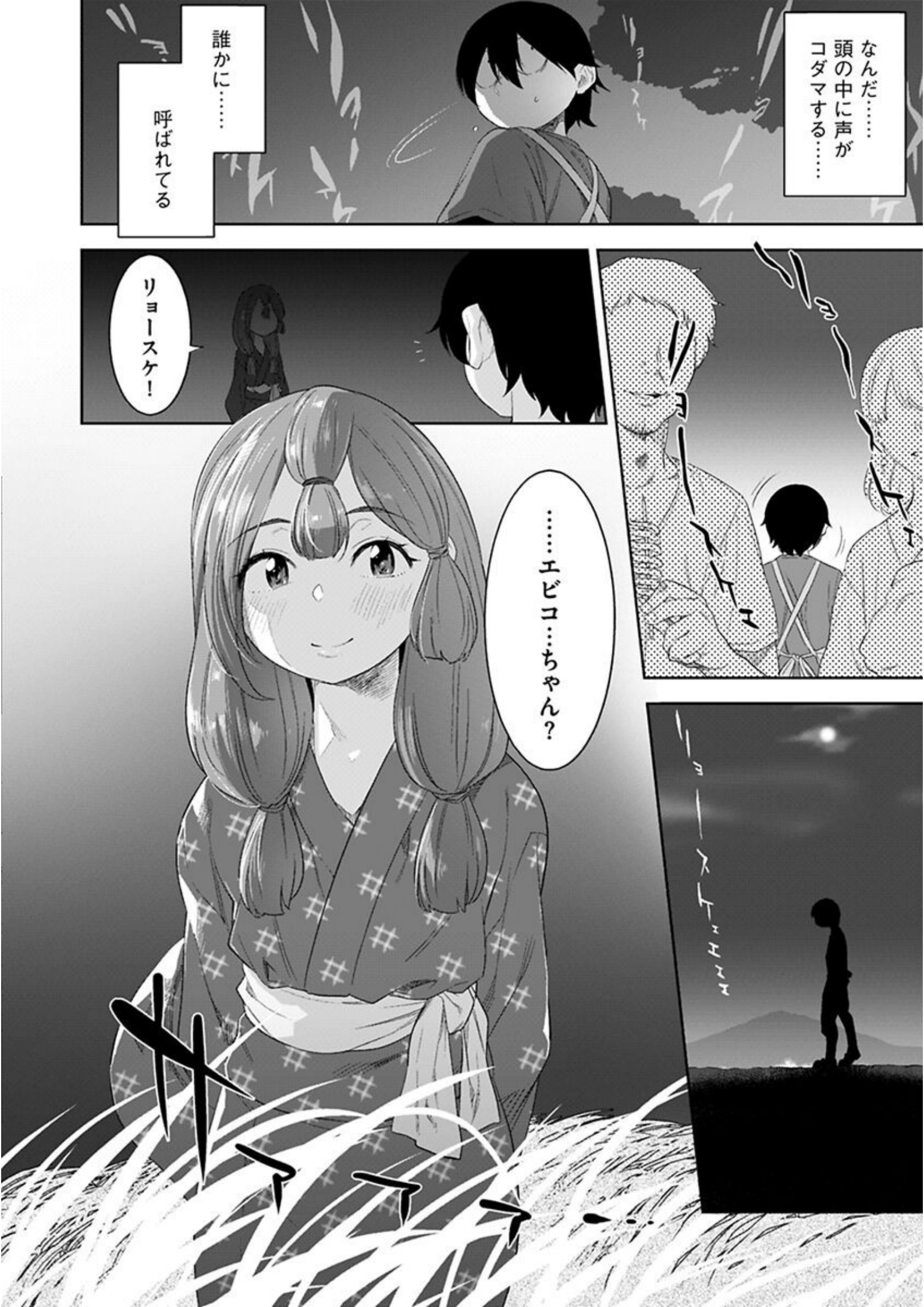
なんだ……
頭の中に声が
こだまする……

誰かに……

呼ばれてる

リョースケ！

……エビコ……ちゃん？



リョースケの気って
大きいから
戻ってきたのもすぐ
わかったけど

なんですぐ
会いに来てくれん
かったん？

ごめん……いろいろと
立て込んでさ

ふーん……
ウチのこと忘れてた
とかだったら怒るからね

え……えーつと……
そんなことよりちよつと
気になってることがさ

なによお

なんだかここ一帯に
妙な気が流れてない？
威圧感があるっていうか……

……へー

やっぱり
リョースケって
霊感が強いね

その妙な気
って……多分
アレが原因だよ



遺体で発見
されたんだ

確かあの山で
母さんとばーちゃん
は……



山……？

くまやま
供魔山だ



でも気をつけて……
この瘴気は少なからず
リョースケにも
向けられて……

供魔山から瘴気が
流れるようになって
この町の霊の様子が
変なんよ……











んあ…あ…

指い……
入ってきてしもーた

エビコちゃん……
そろそろイク……よ



すごいね……
ウチに纏ってた
瘴気がリヨースケの
精気で消えた

やっぱりリヨースケが
町に戻ってきたことには
意味があったんだ

この力があれば
山の瘴気もどうにか
できるかも

いやっ……
俺にそんな
大層な力は……

うちはそう確信
しとるよ

それにほら
皆も応援
してくれる

ガッ……

俺が皆を救う……？

ウチはもうこのまま
必要とされずに
朽ちていく存在

それと
もうひとつお願い
聞いてくれる？

だったら……
リヨースケの力で
ウチを解放してほしいんよ



そりやそうか
エビコちゃんは
昔のままだもんな……



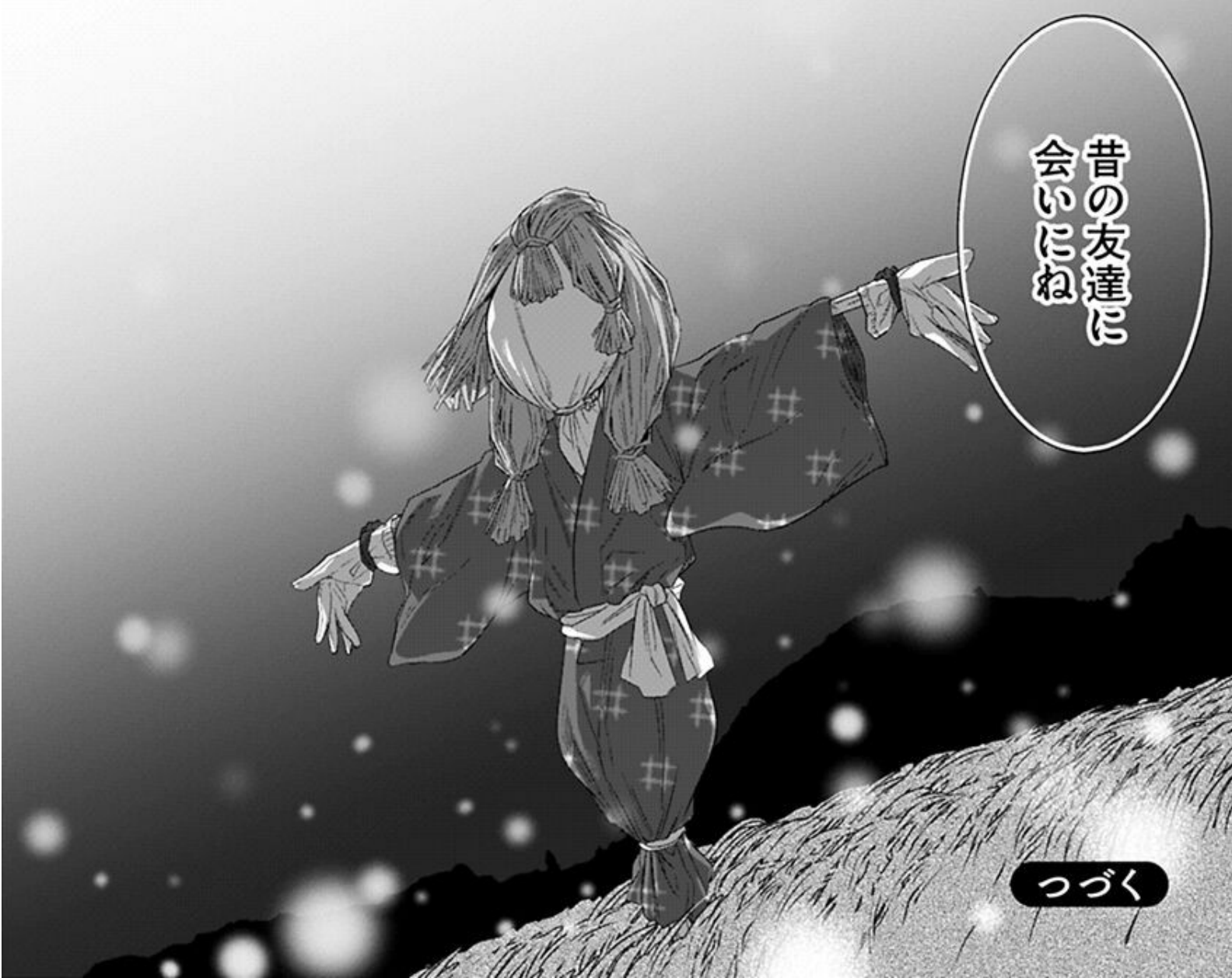
エビコちゃん…



ウチはエビコ
きみ…カッコイイね！











俺だって祭りの片付けが残ってたんだよ

それに今は
入山禁止の看板もあるし
大丈夫だろ……



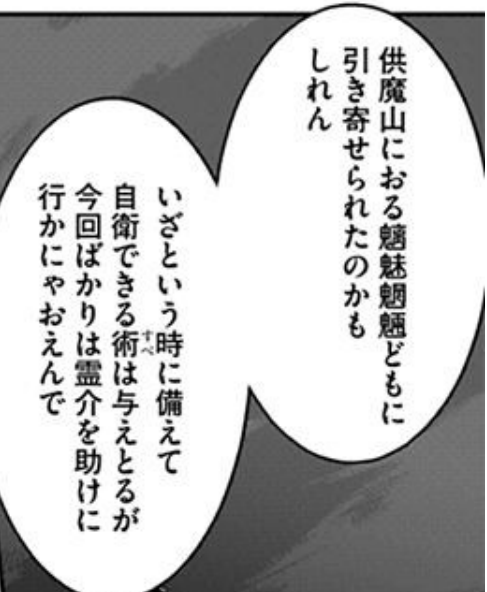
…びっくりしたあ

おめえ…それで
霊介が供魔山に行く言うて
止めんかったんか!?



あのさ……
供魔山はあんな事故があったから
近寄せたくないのはわかる
…ただそれをまた幽霊だなんだのと

霊介の教育にもよくないし
そういう妄想はいい加減
やめてもらいたいんだけど



供魔山におる魍魎魍魎どもに
引き寄せられたのかも
しれん

いざという時に備えて
自衛できる術は与えとるが
今回ばかりは霊介を助けに
行かにやおえんで



ふん……
霊介にも同じことを
言っとったんじやろ

霊なんておらん
そねーなと言うと頭が
変じや思われる



父親から霊の存在を
執拗に否定され続けとったんか…

どうりで霊介が幼少期の記憶を
ほとんど覚えとらんかった
わけじゃわ

あのころの霊介の遊び相手
っていやあ
ドラ猫か子供の霊か



「霊なんて存在するわけねえ」
おめえがそう思うんは
勝手じゃけどな

昔の思い出まで否定
されるんは
霊介が不憫じゃろーが





あたいは傀^{ククリ}割様の
使い魔にして供魔山の番人

ちよつと…あたいのどこを
どう見たらタヌキに
見えるってえ？

名は郷狸^{サトリ}ってんだ

ザッ
レッ



なんだかややこしいのが
出てきたぞ……
番人ってなんだ……？
それに…ククリサマ……？

う…

この町を覆う
瘴気は傀^{ククリ}割様が発している
もの……

この町に入ってきた
ひとりの人間が原因でね
傀^{ククリ}割様はその人間を異物と
して見ているんだけどね



そう狼狽
するんじゃないよ

傀^{ククリ}割様は
この供魔山を
統べる巫女であり
神なるお方さ

アンタが
その人間ってワケ

キョーッ

えっ
お…俺…？

だから
アンタのその強力な気が
傀割様を警戒させてんの

普通の人間と
精気の質が違うから
あたいらには毒に
なるんだってさ

普通の人間なら干物になるまで
搾り取ってあげるんだけど

残念ながら
止められてるからね

皮を剥いで
傀割様に献上かな

ガッ

ガッ

ガッ…

ヤバイ……
これは話が通じない
タイプだ

早くこのタヌキから
逃げないと……

……だからさ

タヌキじゃないッ
つってんだろオ!!

あ…これ
ヤバイかも……

マジで死……

なんだ…?

今オマエ…
何をした?

…あれ?

まあいい……
あたいには傀儡様から
授かった力がある

この「読心眼」が
ある限り
あたいは無敵だ

さっきは感情的になって
心を読み損なっただけ……



——ッまた弾かれた

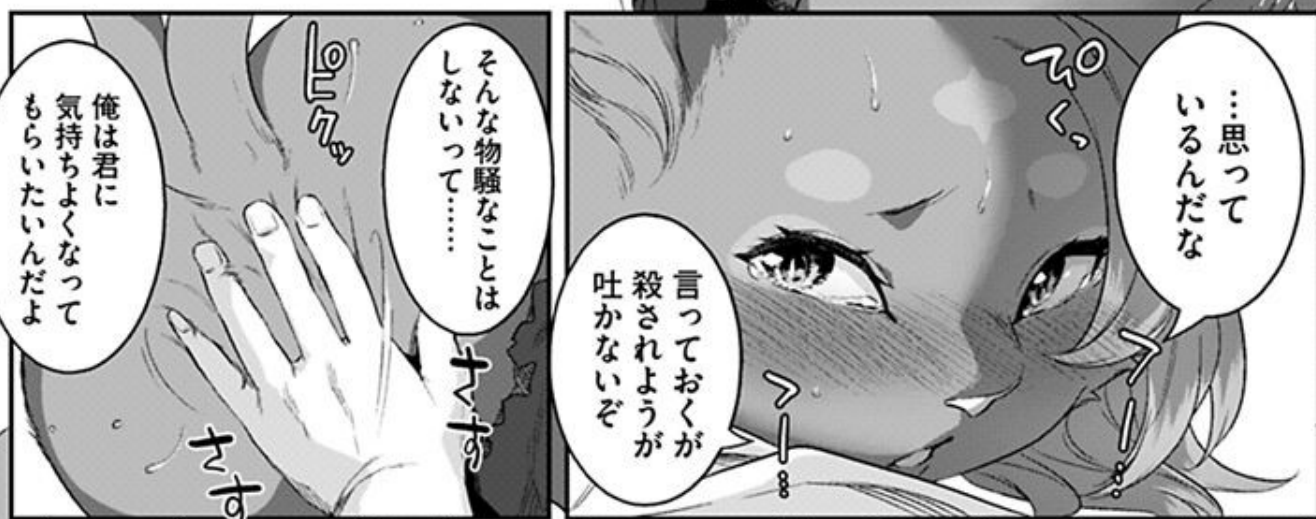
この人間……
何か巨大な存在に
護られているっていうのか？

それも
こいつの意識でやった
ことじゃない











そ…そんな裏切り…
あたいには……

あたい…
あたいには…

はあ…く…
傀刳様…
う…



あのさ…こんなこととして
今更かもしれないけど

その…

本当に俺は
君も…その傀刳様も
傷つけようだなんて
思ってた…

この人間…
嘘は…ついてない

むしろあたいや
瘡気で苦しんでいる
怪異たちを



救おうと必死なんだ

…わかった
傀刳様の所まで
案内するよ

約束する…
だからさ



傀奇様が……

この人間の精気が
毒だと言った意味が
わかった気がする



体じゅうの邪気が
浄化されていき
代わりに幸福感で
満たされる

どんなに赦^{ゆる}されないことでも
すべてが赦されるような
そんな感覚になってしまう

あたいには
それが恐ろしい

やっぱり君の顔
もっと見たいかも

ごめん…

それより厄介なのが
さつきから頭に響く
コイツの声だ……

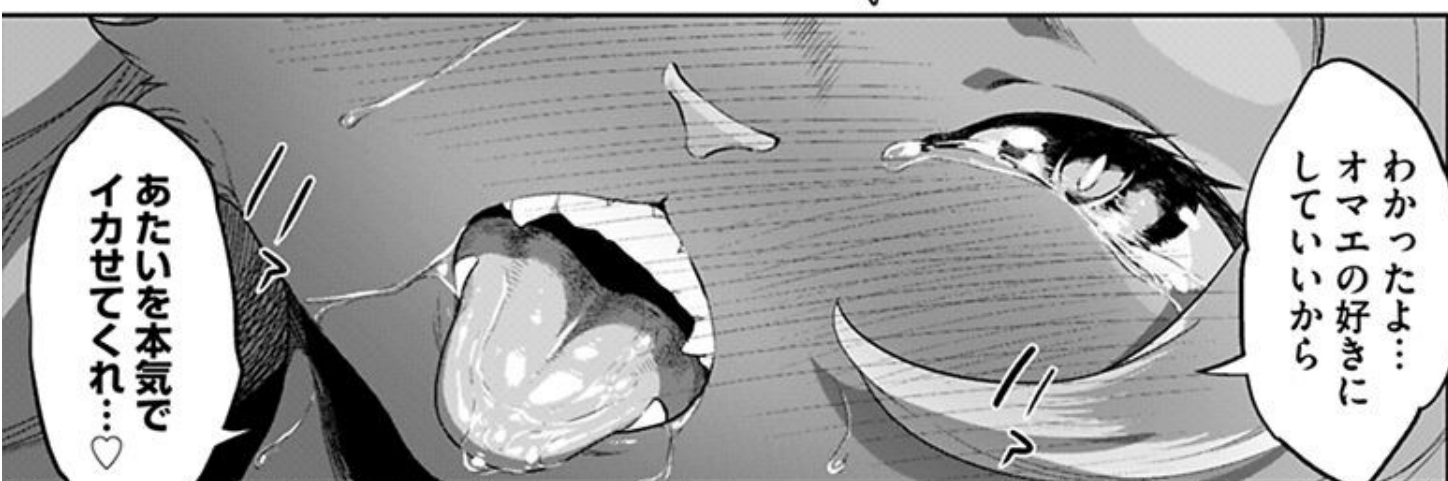
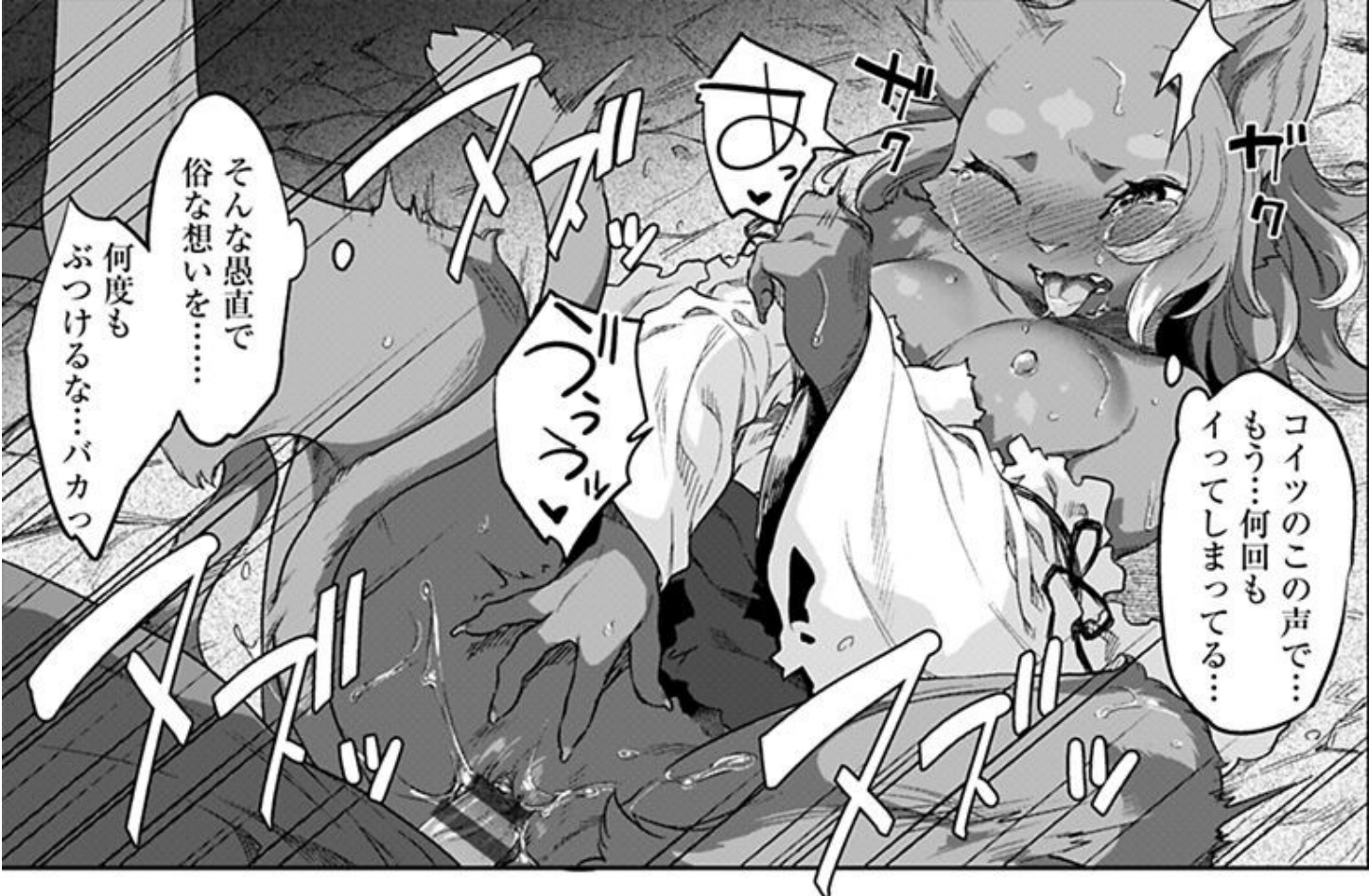
ふわふわしてて
かわいいよな
……はあ

ああもう……
切ない顔が
たまらないよ

愛液の量すご……
いっぱい感じて
くれてるんだね

キスしても
いいかなあ

どうしよう……
愛おしくなってきた







ここには傀剗様によって
殺された人間たちの
靈魂が残留している

しかしそれらは
傀剗様の本意ではない…
だから今も尚^{なほ}あの方は
苦しんでいるんだ



うわやバツ！
俺ちよつと
氣を失ってたよね…

ドキッ

でも
この人間になら
あるいは—

？

感謝しなよ
アンタが気を失ってる間
寄ってきた悪霊どもから
守ってやったんだ

まぐわい中に聞こえてきた
アンタの気持ち
正直悪い気しなかったからさ
この先もあたいが守って…

ありがとう
本当助かるよ

でも俺の
気持ちって…?

なーんだ

思ってたより
イロオトコだった
ってワケねー

さて……
約束だからね
案内するよ

傀儡様の所まで

昭和29年

敗戦の傷跡が癒えて久しく
国民は活気を取り戻し
生活は豊かになり
平穏な日常を手に入れた

その一方で当時は
「ヒロボン時代」とも呼ばれ
法で規制されてからも
流通が絶えることはなく
社会問題となる

現代より遥かに
不安定で不透明な時代
そんな時代に
青年 鬼村茂^{きむらしげ}は生きていた

第8話 ◆ 妖刀の姫に 魅入られた青年

おっはよー！

もっとカネを
稼いで…それで…

カネじゃ…

ヤッ

頑張つとるねえ
新聞配達員さん

弘美か……
やけに早えな

テニス
庭球の朝練
試合も近いからね

この寒いのに
よーやるわ

それは
茂君も一緒でしょ

お母さんも
ぼっけえ褒めとったよ
毎朝頑張つとるなー
ってさ

おお……

そーいやおばさん
朝よお散歩しとるな

茂君も何か
部活動始めれば
ええのに



…なんてな
そんな自問自答も
恨み言も
正直もう飽きたる

一応俺にも
夢はあってさ

もっと稼いで
いつか食堂を
開きてえんよ

女もガキも
俺みてえな貧乏人も
皆がたらふく食える
食堂を…って

まあ…今はその
夢が糧じゃ
叶うかどうかは
別じゃけどな

叶うよ

叶うに
決まっとるわ！



変なヤツじやで

それじゃあまた
学校でね

.....

この先はおえんで
昨日の台風で
土砂崩れが起きて
しもうてなー

残りは
山向こうに住んどる
人たちじゃけど.....

おお？

獣道から迂回しよう
って考えは
浅はかじゃったか...

麓に下りてから
下道通るにも
時間が掛かるけえ

110キ...

刀…か？

おいおい
なんでこんな
もんが……

しかも日本陸軍の
軍刀じゃで

……
待てよ……

こいつ…蚤の市で
高お売れるぞ





ああ...そっか

なんなんこれ...

そうじゃな...
ずっと辛^{つれ}え目ばかり
遭^あうとつたら

生きるのも
アホらしゆうなるわなあ

一体何が
起こ^おこつとるの？











クワッ



なんならおめえ…
ホンマは喋れたんか…

※あちら、主に外国人を指す



…あ
アチャラの幽霊
じゃったか…

ぐきゅ

なんじゃ…
どうした…



デモワタシ……
ニホンゴヘタ…タカラ…

もじ…

スコンダケ…

わしの鼓動が
ヤケにうるせえ…

もしかして
この霊にときめいとる
のか……？

次の射精に
この気持ちに乗って
しもーたら
それが最期かもしれん…

はぁ
はぁ
はぁ

たぽっ

たぽっ

たぽっ

はぁ

たぽっ

たぽっ

たぽっ

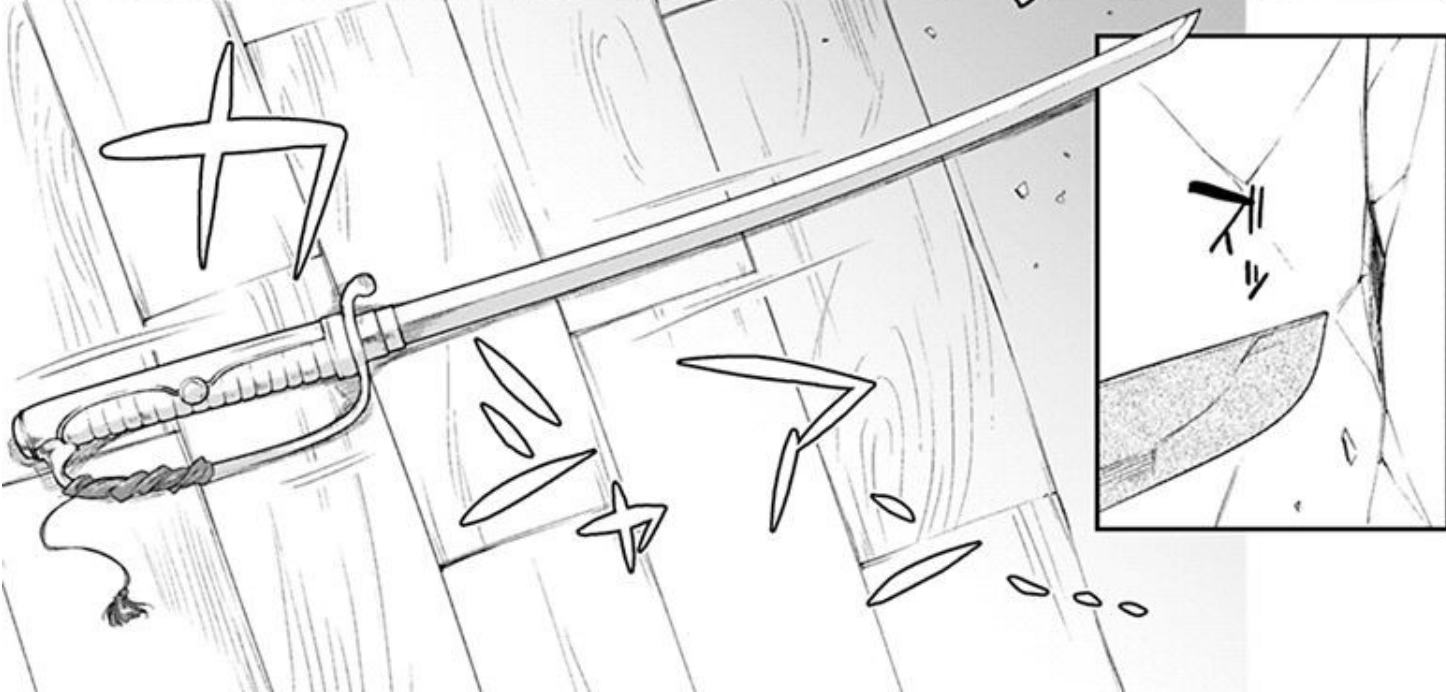
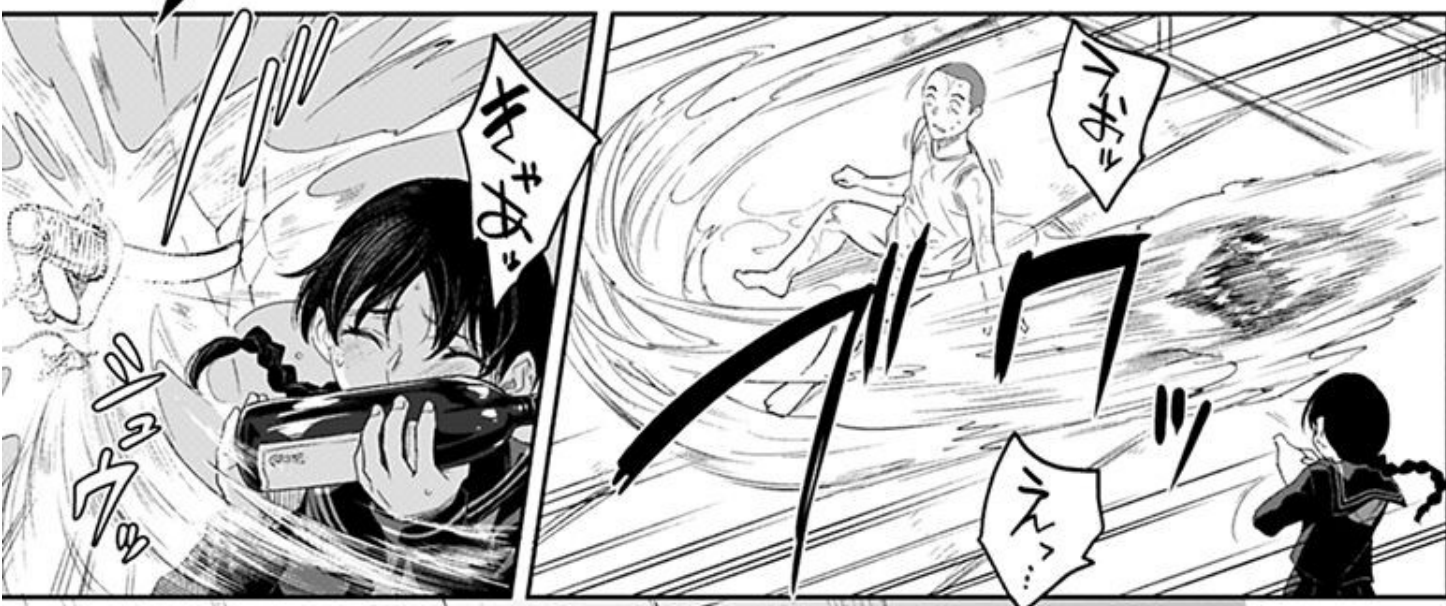
でもおめえみたい
なべっぴん抱きながら
死ねるんなら…

或いは……
いい人生じやった
って…言えるかもな

ブルッ







はあはあ

お酒……
効いてよかったあ~~~~~

クソ親父の
酒が初めて
役に立ったな……

さ…鞘っ！
鞘に戻さんとッ！

ううんっ！

それから
わしと弘美は相談の末
この妖刀を元の山に
埋めることにした

この供魔山に

つづく

昔の話だが
この土地は元々
人身御供の慣習が
あったらしい

ある時
賢の巫女が不足して
急遽巫女に仕立て
上げられたのが
傀割様だ

しかし本物の巫女では
ないと知った山の神は
激怒してしまい
傀割様は呪いによって
妖怪にされてしまった

最終話 ◆ 涅槃を求め妖しく 惹かれ合う陰と陽

だが山の神にはひとつ
誤算があった…
妖怪になったあの方の
力を見誤った事だ

傀割様の強烈な
「陰」の気は山の神を
屠る事も容易かった
そうだと

テテ…もう少し
ゆっくり歩いて
くれないかな…

こんなの
ほとんど獣道
だよ…

全く世話の焼ける…
案内しろと言ったのは
アンタだろ

辛抱しろ
もう直に着く

とにかく…それ以降
傀儡様は新たな
山の神として崇め奉られる
様になったが

大丈夫かな…
何だか恐ろしい神様
みたいだけど…

ありがとう…

その力から
ニンゲンからも妖怪からも
恐れられる存在になった

…お優しい一面も
あるんだ

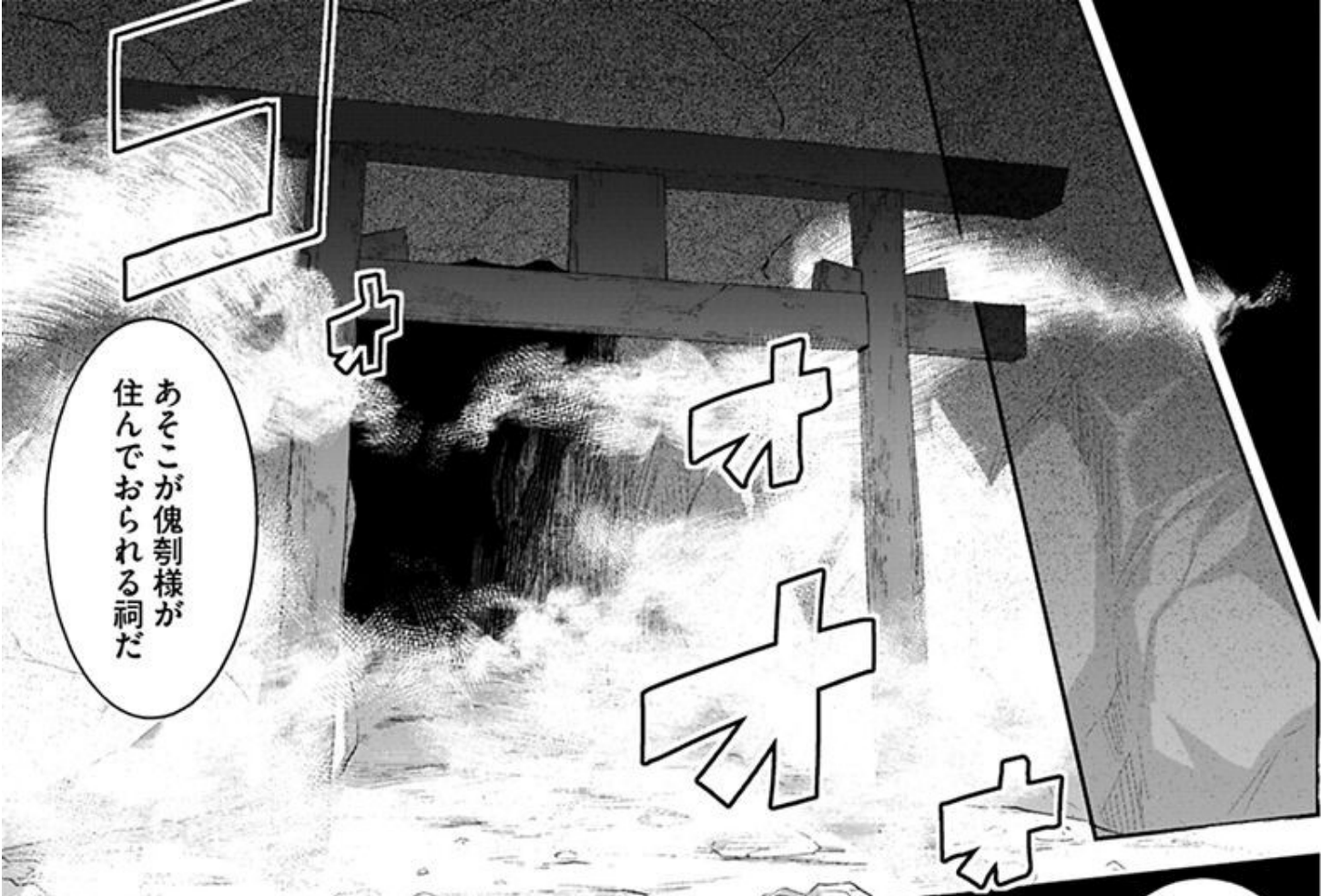
だが…
確かに恐ろしいニンゲンが供物を
捧げなくなつてからは
日々その怨念は
強くなつておられる…

供物を捧げなく
なつた…？

そうだ…
事が起きたのは
10年前の
五穀豊穰祈願祭
ごくほうじょうきがんさい

かつての名残で
当日の女人の入山は
厳禁とされていた

しかしあの日
入山した女人が
ふたりいたんだ



あそこが傀掬様が
住んでおられる祠だ



いいか？
今が精気不足で
いくら弱っている
とは言え



決して気を抜いて
良いお方ではない…
気を付けるんだ



郷狸…
誰が元凶を連れてこいと
言いんした？



それは…わっちに對する
謀反と捉えてええんかえ？

誠にお主は
たわけ者
金茶金十郎よな



郷狸よ…
わっちにそんな嘘が
通用すると思っとるん
かえ？

ぎ
や
ろ

これまで受けた恩をも
忘れてしまうたなら…
そのニンゲンと一緒に
踏み潰してやろうぞ



ズ
オ
オ

狼狽するなニンゲン
大丈夫だ！

お前の守護霊を…
彼女たちを信じろッ！！







君達は…ッ

言ったでしょ
リョースケ

「また会える」
って



行ってこい…

あたいが案内
出来るのは
ここまでだ

人間め…
忌々しき人間め…
よくも神であるわっちを…

しかし…郷狸以外の
妖怪も懐柔して味方に
付けるとは…驚いたぞ

いやあ…俺もイマイチ
状況を理解できてない
んだけどね

とにかく…
一度落ち着いて話し
合えないかなーって



人間風情が偉ぶっておって…
誰に物を申しているか
分かっておるのかえ…

いくら弱って
おっても
お主を屠る程度
の力は残って…

ええッ
いや俺は…



まあまあ傀割様
そう強情にならなくても
良いのですよ？

白蛇ッ？
お前…使い魔の
分際で何を…



こんなに強い
「陽」の気を眼前に
しているのです

ほら…乳首も大きく
腫れ上がって
体が疼いておられる
んでしょう？

傀割サマの強力な「陰」
そして童の強力な「陽」
相反するもとてつもない
引力で惹かれ合う存在です

とどのつまり…



さあ…準備は出来てる
からいつでもいいわよ
坊や

解けぬッ

ズレッ

ねー…早くう

ほら…霊介クン

リヨースケ!

どろろ…

与太郎め…

こんな狼藉(ろうぜき)を働いて
碌(ろく)な死に方はせぬぞ…

うっ…

ちゅっ…

お主の末代まで
崇めてやる…!!

ちよつとさ…

決して浄化できぬ
呪詛をこの町全体に
振りまいてや…

静かに
してくんないかな

この人間…

理性を失った
ケダモノの顔を
しておる

わっちを全力で
犯しに来ている
のか……!

しかしわっちの
からだはこやつ
の精気を……

イチモツを
すっかり受け入れて
しまっている……

すっごいビストン……
今日の坊や
容赦ないわねえ

やっぱり
あの話を聞いた
から……?

入山した女性……

傀儡様が
正式に供物を
受け取る日だ

彼女たちを餌として
認識するのは
至極当然だった……







何かおかしいぞ…
お主の精気が
わたちの身体を蝕み
始めたのか…

あ…
熱いのだ

頼む…
もっと激しく
突き刺してくれ

ああ…

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ

アッ



傀剥様…

こやつの精気を
内側から浴びると
わっちはどうなって
しまうのか…

実のところ…
やはり少し恐ろしい
のだ



えろう長い夢を
見ていた気がしんす

妖怪として生まれ
変わったあの瞬間から
あらゆる物に対する
憎悪がいつも心に
渦を巻いていて…

それが自分足らしめる
ものだ信じて
わっちはそう或るべき
だと信じて

それでも日々暮る憎悪の
先には何もなくて
あるのはただ孤独だけ…

思えば何かを信じ続け
何かに裏切られ続けた
人生でありんした…

誰でも良い
ただ誰かに愛され
必要とされたかった
その願いが叶うなら
わっちは…





えッ…

あ…あ…
…ッ!

ガッ



…ちゃん

りようちゃん

……ん



アンタの精気は
傀剗様を成仏させるには
至らなかつたが
強力な呪いを祓うことは
出来た…

この山ごと傀剗様を
縛り付けていた陰湿な
ものさ

それが解けた今
山に留まっていた靈魂を
縛るものはなくなった



母…さん？

りようちゃん
覚えてる？

りようちゃんが
小学校に上がった
ばかりの頃かな

幽霊のお友達のことを
お父さんに喋ったら
怒られたことあった
でしょ？

お母さん幽霊とか
よく分からないけど
泣きべそかいてた
あなたに言ったの

幽霊でもなんでも
大丈夫だから
良いお友達をたくさん
作りなさいって

そしたらね…ふふっ
僕頑張るよって物凄く
張り切っちゃってて

ホント…
よく頑張った
わね

良いお友達
沢山出来たじゃない
りようちゃん

まっ…







せいぜいここで
罪を償えや

大人しゅうするなら…
供えもんくれえは
なんとかしちやる



ただいまー



さつきな…

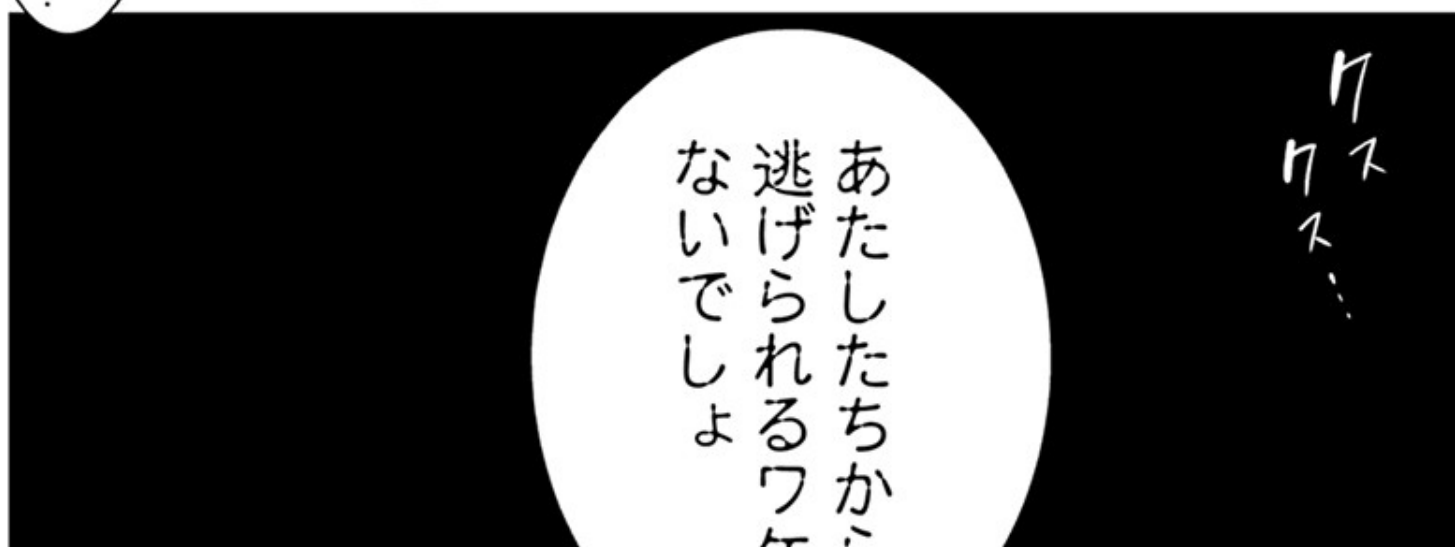


お前らの帰りを
待っている間…
ふいに和子の声が
聞こえた気がしたんだ



俺ちよつと
今日はヘトヘトに
なっちゃったからさ…

先にもう
寝ることにするよ



おとがき

どうも、んめと申します!

この度は「化けケケ」のお買い上げ誠にありがとうございます。

楽しんでいただけたでしょうか?

今回2冊目の単行本となるのですが、前回の本は過去に同人誌として描いたものをまとめた作品集になるので、今回の「化けケケ」が実質初単行本ですね!

さてさて、この「化けケケ」を通じて一番痛感した事としては

「連載作品って...めっちゃう難しい...!」と、もうね、コシに限りますね。

同人誌でも単発のお話しか描いてこなかった民なので、話の組み立て方がまあ難しいといつか、初期の構想段階では本筋もなく、単純に目的もなく幽霊とパンパコしまくるだけの内容だったのです。

本筋を立てゴールを決めて毎話作っていくのって、こんなにやる事が増えるものなんだ+...と、とっても勉強になりました。

しかし!私はまだまだ妖怪や幽霊が描き足りないのですよ。

そういえば、雪女とか定番どころはトンと描いてなかったし、3く3首に關しては第1話で4つ見せただけで...何をしてるんだ俺は...!

なので、読者の皆様にSNS等で

「化けケケ最高!もっと見せてくれ!ヤッヤ×2!!」

的な事を言ってもらえると、私も出版社さん気分が良くなって

また続編を描かせてもらえるようになるかもしれません。

というわけで、今後ともどーかヒトリ応援の程

ヨシクおねがいいたします!

最後に、同人誌即売会でせこせこニッチなマンガを

描いて売っていた自分を見つけてくださった

初代担当のMさん!

本当〜に感謝しかありません。

ありがとうございました!!

それでは、妖怪や幽霊に欲情してしまう同志の皆様
また別の作品でお会いしましょう!



他



GENESYS COMICS

化ケケケ

2023年12月20日 初版第一刷発行

著 者 んめ NME

発行人 矢澤 篤

発行所 株式会社ゲネシス

〒166-0003
東京都杉並区高円寺南4丁目10-2 吉岡ビル 205
TEL:03-5378-7815 FAX:03-5378-7817
<https://genesysenji.co.jp>

発売所 株式会社鉄人社

〒162-0801
東京都新宿区山吹町332 オフィス87ビル3階
TEL:03-3528-9801 FAX:03-3528-9802
<https://tetsujinsya.co.jp>

本書の無断転載・複写・上演・放送を禁じます。

また、本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上の例外を除き禁じられています。
本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、
たとえ個人や家庭内での利用であっても、著作権法上認められておりません。

本書の掲載作品はすべてフィクションです。
実在の人物・事件・団体等には一切関係ありません。